

◇助手募集

男子(十五歳ヨリ)各一
女子(十八歳マデ)名宛
右至急募集す本人來
談の事
平町南町(電話四十七番)

芹澤自動車部

停留場 磐城銀行向
移轉御披露
牛豚肉大賣出し
拜啓向寒の御各位皆々様には益々御多祥之段慶賀の至りに奉存候陳者いよく食肉の季節とも相成營業擴張のため左記の所へ移轉仕り

品質第一 を商是と致し販賣可仕候間舊に倍し御引立の程偏に奉懇願候
尚ほ開店に付特價を以て御提供可仕候多少に拘はらず御買上被下度奉願上候
當十二月十一日より四日間
平町字白銀町(平劇場スク前)

大塚吉藏

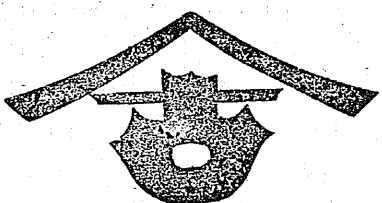
牛豚肉問屋
仲間町 商店向 十圓
白銀町 醫院向 五圓
櫻町 勤人向 五圓
内郷村小島 勤人向 六圓
保 神戶火災 平代理店
東洋火災 平代理店
共保生命警東代理店
御用は電話二三番へ

加藤營業所

平白銀町十五番地
振替口座東京六二四三番
電話三二二五五番

謹告

謹啓弊店儀永年各位の深厚なる御同情と御眷願を辱うし洵に感佩の至りに堪へず候然るに今般時勢の進運に鑑み合名會社に組織を變更し明年一月一日より會社名を以て從前の營業相營み可申候間何卒舊に倍し御愛顧御引立を賜はり度奉希上候先は乍略儀以紙上舊來の御厚誼を拜謝し右御挨拶申上度如此に御座候 敬具
大正十四年十二月



鹽屋 釀造元 山崎合名會社
代表社員社長 山崎與三郎
代表社員專務 山崎清三
電話 釀造工場 二七〇番
東京支店 淺草五七二八番

(追伸) 營業部目下當町字土橋通り(舊鹽屋吳服店跡)に建築中につき來春落成の上同所へ移轉數種食料品を加へ問屋業兼營可仕候

當欣淨寺墓地内一部
平町道路として使用せらるるに付本月十四日、十五日の兩日右墓地移轉改葬可致候間右關係者一同に念の爲廣告仕候
平町材木町 欣淨寺 以上

◇開店披露
銘酒 近盛
電話七〇七番御利用下さい近邊を問はず迅速に配達致します

金成酒店
平町向鎌田 主 金成錦星

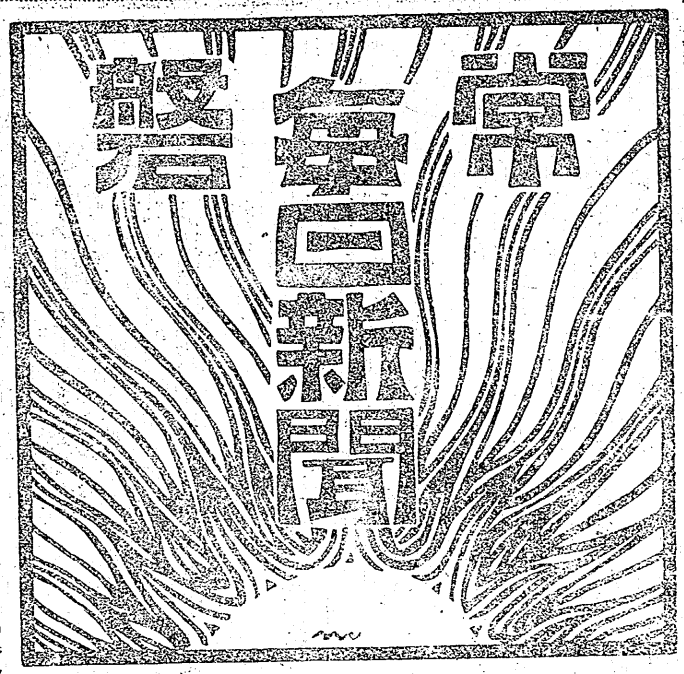
◇小僧募集

十二、三歳一名
右至急募集す
本人來談の事
平町三丁目
海産物雜貨商
阿部榮藏商店

喜多林之助
平町月見町
土石 炭石 岩
建築 炭石 岩
請負 販賣 販賣
(強勉大もれ何)

冬服新荷着
御氣に召す洋服が
澤山揃ひました
紺黒サージス
ツチメルトン三ツ組
其他 立エリ上下
學生服豊富
磐城平町二丁目
なかや洋服店
電二〇三番

代價拾錢 藤田家傳
許官正明丹 藤田榮助
平町西町電話三六番



定一部金貳錢 廣五號十二 刊休日臘六祭 福島縣石城郡平町長橋町三五
一ヶ月掛錢 告字詰一行 料(五十錢) 日(祝日ノ翌) 發行所 常新新聞社 電話六二〇番
電話五五五番

刊夕日二十月二十

常磐論壇

政治教育とは何ぞや 政界通人

(一) 此人々に任かしておいたならば日本は骨董となり人民は微臭くなる政治とは活きた人間が時代はこの必要に應じて常に新しく創造すべきものである、業人形を木剣で叩く所の剣術の型でなく日々生活に逐はるゝ民衆の眞剣勝負である生死の境に苦悶してゐる民衆が新らたな政治を考へ出す彼等の汗と涙で新らたな政治が創造されるそれが即ち政治の進歩ではない乎政治は

(二) 創造さるべきものである、それを教育すべきものであるかの如く云ふのは日本を何日迄も舊式の政治の型で縛つて國民の血を最後の一滴迄搾らんが爲めである (をばり)

一册の代金で 御希望通りな 五册の雑誌が 自由の讀める 川崎文庫 電話六三〇番 (申込次第規則書進呈)

優美鮮明 敏速丁寧
活版印刷の 御用命を御 願致します
常新新聞日刷所
平町長橋三三番
(電話六三〇番)

發行兼編輯人 川崎文治 本社下同番地(電話六三〇番) 印刷所 常新新聞日刷所

皇孫殿下の御名は 照宮成子内親王

皇孫殿下の御名は本日午前宮内省よりの發表に依れば照宮成子内親王殿下と仰せらるる由洩れ承る

(東京特電)

伏見町長の奉祝文

本日の奉祝會盛況

昨報平町に於ける皇孫殿下御降誕奉祝會は本日午後十二時より第一小學校に於て開會、參集者六百有余にして佐藤助役開辭を述べ伏見町長は左記奉祝文を謹讀

合名會社に 組織を變更し 食料品も捌賣

平町古鍛冶町ヤマフル醬油醸造元鹽屋本店は營業逐年繁昌し業務は全く堅實味を加へて東北屈指の大商店と數へられて居るが店主山崎三郎氏は時勢を達觀し且つ將來の發展に備ふべく今般組織を變更し來年一月一日よりは山崎合名會社と爲し山崎氏は社長に令息清三氏は専務として専ら業務を執掌する事となつたが更に目下土橋通り舊鹽屋吳服店跡に洋式の宏壯なる營業部を建築中にて來春竣工の上は同所に移り各種の食料品等も販賣する由

白銀火防督勵 平町 白銀町火防組合にては客年

遂げ内容を充實し期せずして市制の實施を觀る可く之が時機も、兩三年を出でないことであらう

欣淨寺墓地 一部移轉改葬

平町材木町欣淨寺の墓地内一部は既記の如く南裡幹線に貫通すべき支線道路開通すべき爲め十四五の兩日右墓地を移轉改葬する事となつた由

石城酒造多忙 新造二萬五千石

酒造期といへば十一月一日から翌年二月まで特に最盛

南裡が 平町の中心 大建物の建設

平町の市制準備は着々として進んでゐるが地勢上から南方に發展するの外に途がないので目下工事を急いで居る幹線道路を中心として將來立派な市街地となるものと觀られてゐるが明春一月起工されんとする警城訓育院を初め近き將來において市役所となるべき平町役場、平郵便局等の大建物もこの一帯に建設するはすその間に商店その他の建築物がしつ比するに至らば町勢は自然的にうちやうやう

中ホースを設備し是れが納庫を建設したが組合員中には取扱法を知らない者が多いので十二日火防督勵の序に消防手小松福松君が取扱方を指導したと

繭倉庫に 四割の補助

石城で講習會

農村振興の一として農林省

炭礦地が海に伸びる

小名濱と江名の地域に 警炭の試掘許可

常磐炭礦界に於ける現在概ね山手寄りの礦區が逐年業務の伸展に伴ひ漸次海岸方面に向つて推移すべきは蓋し自明の理數として認められ既に石城地方に於ても海岸地の試掘出願を爲しその筋の許可を受けて居る向きもあるが

時節柄 その起業の 時期等邊に逆略し難いものあり所詮は當分の實現不可能に近い位に想像されつゝある折柄今同常磐炭礦の弱を以て稱せらるる警城炭礦株式會社が石城郡小名濱

平ウキヤ政會 組織を變更し 平俠政會は組織を變更して

パンにバターを引いて油が火にとけたら手早く兩側を焼くのです。其際ビフテキのやうに内部に熱のあまり通りぬ程度でした方が滋養が多いです。そしてレモンの輪切りにしたものを添へて皿に盛ります

小鳥料理 小鳥のテーキ、小鳥の羽やロパン足先を切りとり腹をさいて臓物をとり出し平たくし、洗はずにフライ



餘計な負擔 一反歩十一圓 農村民コボス

石城郡愛谷堰改修工事費負擔問題は過般縣に於いて地下一關係町村と協議の結果下流側が七萬八千圓上流側が七千圓と云ふ事

不平受付 投稿觀迎

福引の金額 私先日は福引の催しを平署に願出ました處福引々替金額より超過した景品の爲めに認許されませんでした、即ち三圓の引替券に對し三圓以下の景品のだけならばならぬ縣令なのださうです、然るに五丁目の聯合賣出しの福引は一圓の引替へ券に對し本桐筆筒や白米一俵宛も出すと云ふ事では引替金額を超過する事勿論ですがそれに對する署長の明答を仰ぎたい (無名氏)

下流側で 助増額に強硬な態度を持つてゐるから實現までには一問題は免れまいと觀測する

十三日會の講演 平

町十三日會は明十三日午後七時より平銀樓上に開會中里檢事の「陪審制度に就いて」及び警中軍事教官永島大尉の講演がある由

新らたに設立されたが其役員は左記の如くである

(會長) 齊藤敏實(副會長) 赤塚彦治、橋本誠造(幹事) 草野利雄(會計兼幹事) 中島孟(常任幹事) 高倉精一、柏原喜八(幹事) 山下喜二、齊藤直次、坂本伊之吉(相談役) 井上茂作、伊東一、鈴木辰三郎

として五圓又平その他の如きは水害豫防費として年々四圓の負擔をしてゐるが今回の負擔は更に一反歩に對し

一圓餘と なり實に平均十一圓内外の負擔となる譯であるから關係村民が容易の事ではい然るに該工事は明治十九年に縣の補助工事とした結果上流に多大の被害を及ぼすやうになつたのであるから縣の責任は決して輕いものではないと云ふので

下流側で 助増額に強硬な態度を持つてゐるから實現までには一問題は免れまいと觀測する